

---

## 岐阜県立岐阜各務野高等学校

学 校 長 村山 義広

学校住所 各務原市鵜沼各務原町8丁目7-2 電話 058-370-4001

---

### 1 会議の名称 学校運営協議会 (第2回)

2 会議の構成 委 員	伊藤 浩	元各務原区長
	臼井 俊裕	元岐阜各務野高校長
	池元 静香	サン・ビジョンジョイフル各務原施設長
	野島 栄子	子苑第二幼稚園長
	亀山 雅弘	P T A会長
	都築 三枝	P T A副会長

学校側	村山 義広	校長
	平川 正夫	教頭
	吉田美智代	教頭
	河手 克巳	事務長
	鈴木 雅雄	教務主任
	山田 誠治	生徒指導主事
	松本 正樹	進路指導主事
	久保 利光	ビジネス科主任
	後藤 誠司	情報科主任
	小又 友樹	福祉科主任
	疋田 里奈	記録係

3 会議の目的 広く各界の代表の方から学校経営や教育活動に関する助言、家庭・地域社会との連携に関する助言をいただくことによって、岐阜各務野高校の教育上の課題を明確化するとともに、解決への方策を具体化する。

4 会議の開催 令和2年10月30日(金) 13:30~15:00  
岐阜各務野高等学校会議室  
委員6人と学校側11人が出席  
(1) 校長挨拶  
(2) 日程等について  
(3) 【協議事項】

- ①令和2年度生徒及び保護者等を対象とするアンケートについて
- ②「ふるさと教育」等の実施について専門学科長から中間報告  
ビジネス科、情報科、福祉科

(4) 授業参観

- ① 1D 情報処理<ビジネス科> (プログラミング実習室)
- ② 2E 問題解決<情報科> (2E 教室)
- ③ 3C 現代文B<国語科> (3C 教室)

(5) 意見・要望・評価等

(6) 校長挨拶

## 5 会議の概要

### (1) 校長挨拶

第1回学校運営協議会で、承認いただいた今年度の教育活動の在り方と方針に基づき、着実に教育活動を進めているところである。

臨時休業により授業ができなかった2か月分の学業保障を目指し、夏休みの短縮に加えて、9月7日から7限目の授業を実施することで授業時間数を確保している。現状、授業時間数確保は予定通り進んでいる。

また、コロナ禍において見直しを迫られた学校行事については、10月12日に感染症対策を徹底した上で体育祭を実施し、リレー種目や応援合戦も行った。県内公立高校での体育祭の実施は数校であり、挑戦でもあった。10月3日、17日には秋の高校見学会を開催し、中学生384名と保護者296名の参加があり、各学科主任が学科説明を行った。

### (3) 【協議事項】

#### ①令和2年度生徒及び保護者等を対象とするアンケートについて

##### 【教務部】

- ・「家庭との連携」の項目で、特に評価が高い。コロナ禍で、すぐメールの発信を迅速に行っていたことが評価に繋がったと分析している。また、ホームページを7月に大幅リニューアルし、常に最新の情報発信に努めている。生徒はよくホームページを見ているようだ。
- ・1年生は学校生活が始まってから1か月弱でのアンケートであったが、学校生活に満足していることが窺える。臨時休業中のオンライン学習支援も効果があったのではないかと。
- ・進路指導においては、教員が生徒の進路実現に向けて適切に指導していることに高い評価を得られた。

#### ②「ふるさと教育」等の実施について専門学科長から中間報告

##### 【ビジネス科】

- ・8月27日に「高齢者の生活の実態を知る」と題した講習会を実施した。高齢者との地域共生社会の実現に向けて授業を展開している。
- ・マーケティングフィールドでは、「恵みの湯」の協力のもと、ハーブを用いた商品開発を行っている。

9月16日の「商品開発塾」では、朝日大学 中畑千弘先生を講師に招いて商品開発の行程を学び、入浴剤を作成した。

- ・アカウントティングフィールドでは、各務原市の予算編成と執行状況について講義を受け、グループ別に調査を進めている。
- ・アドミニストラータフィールドでは、10月27日～29日の3日間「おじいちゃんおばあちゃんのスマホ教室」を開催した。生徒がご高齢の方にマンツーマンで使用方法を教えながら、交流を深めることができ、薬タイマーのアプリへの関心が高かった。また、スマホ詐欺の危険性についての講習も行い、高齢者に注意喚起を行った。

#### 【情報科】

- ・LEDを使ったイルミネーションプログラミングに取り組んでいる。「フェニックス総合クリニック」及び「恵みの湯」にて、「どのような場面においてどのようなものが喜ばれるか」の市場調査を実施し、資材調達も行っている。
- ・モーションキャプチャによる介護・障がい支援プログラミングの開発を検討している。
- ・災害支援アプリの開発に取り組んでいる。アプリを読み込むだけでボランティアに参加できる仕組みを開発している。
- ・各務原市の魅力を伝える冊子やWebコンテンツの制作を行っている。

#### 【福祉科】

- ・コロナ禍において、校外での活動が難しいため、講習会で補っている。
- ・ケアワーカーフィールドでは、障がいの理解を深め、事前学習として対応の仕方を考察している。障がいのある児童に対する療育教育についても理解を深めている。更に、VR技術を用いた認知症体験を行い、具体的な対応方法について学んでいる。
- ・子ども福祉フィールドでは、人形劇などのモノづくりに取り組んでいる。コロナの影響により今年度はボランティア活動が少ないため、知識をしっかりと身に付け、即戦力になれるよう取り組んでいる。
- ・福祉科は約半数が地元で就職するため、なるべく体験や講習会を通して現場の声を聞きながら、社会で即戦力になれるよう取り組んでいる。

#### (5)意見・要望・評価等

##### 意見1

メディアで本校の様子が紹介されることが嬉しい。ビジネス科のスマホ教室は好評だった。近年は、メールよりSNSが主流となっており、今回の企画は時代の流れに沿っていると感じる。

また、ふるさとに興味をもち、地元企業に就職していく流れができていると考える。

##### 意見2

高齢者施設の職員という立場から、スマホ教室やハーブ栽培などの取組は、地域の高齢者の健康促進や自立支援につながっていると考える。どの科でも、将来的に地域を支える担い手を育てており、経験する事が一番の学びになると思う。授業参観では、一人一台のパソコンやサイコロを使った授

業など、実践的な取組みが印象的であった。

#### 意見3

幼稚園は人間性を育てる場所であり、人としての土台づくりの場と考えている。毎年、実習に来てもらっているが、年々人数が少なくなっており、少し寂しさを感じている。子どもは元気でパワフルなので、実習に来る方もパワーが必要で疲れるが、一生懸命頑張っているとの印象を受ける。

#### 意見4

県下の中で数校しか実施されていない体育祭を、教員が工夫しながらやろうとする姿勢を、子どもたちに見せてくれたことが保護者としてはうれしい。たとえ途中でできなくなったとしても、やれるとこまでやってくれたことに頭が下がる。このことが直ぐに生徒たちの気持ちや感情に表れなくても、大人になり、会社で責任ある立場になった時に、コロナ禍のあの一年はすごかったと振り返る時が来ると思う。また、働き方改革については、生徒にも伝わっているという印象をうける。

#### 意見5

1年生の授業が実践的でよいと思った。3年生は気が緩む時期であるが、落ち着いているように感じた。

#### 意見6

ビジネス科のハーブ栽培や、朝日大学の講師を招いた講義など、現状の課題は何かを考え、それを解決するために取り組んでいる。

福祉科では、VR体験や、大学の有識者から講話など、より深く理解できるように工夫されている点が随所にみられる。

### (6)校長挨拶

委員の方より、現在の教育活動について高い評価をいただいた。今後も様々な課題に対して解決策を探りながら、取り組んでいきたいと考える。生徒は比較的落ち着いており、3年生は進路決定に直面しているが、例年よりも就職の求人件数が20%減り、厳しい状況にある。3年間培った知識・技術を生かし、将来、社会に有為な社会人となるとともに、有能な納税者になってもらうように指導を進めたい。

また、専門高校生は地元で就職する傾向にあるので、ふるさと教育を軸にして指導にあたりたい。働き方改革に関しては、“子どもたちのために”との使命感をもって日々勤務しているため、確実に推進することが難しい現状にあるが、教職員には勤務時間を意識して業務にあたるよう周知徹底したい。次回は、この一年間の総括をみていただき、ご支援を賜りたい。